

**独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第6回
議事要旨**

1. 日時 平成15年3月17日(月)10:00～13:00
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐所長, 中西副委員長, 相澤委員, 阿辻委員, 加藤委員, 倉島委員,
古賀委員, 輿水委員, 小森委員, 柴田委員, 陣内委員, 関根委員, 田中委員,
鳥飼委員, 中山委員, 松岡委員

4. 会議の概要

(1) 第1回最終発表に向けての作業について

4月下旬に予定する最終発表の形式について, 次のようにまとめることとした。

イ. 重要な情報ほど先に出す。見出語, 理解度, 言い換え語, 用例, 意味説明を全ての語について, この順に示し, 必要に応じて, 手引き, その他の言い換え語例, 複合語例をこの順に示す。

ロ. 言い換え語は極力, 絞り込む。ただし, 着眼点, 意味, 文体, 使用場面の異なる有力な言い換えが複数あり, 特に必要のある場合は, 言い換え語を併記する。

ハ. 用例は外来語としても, その言い換え語としても典型的な実例を選ぶ。

ニ. 意味説明は, 文中で展開して使う, 注記として使う, 括弧に入れて使う, などに対応できるよう意味や概念を簡潔, 的確に提示する。

ホ. 手引きは個々の言葉についての必要な補足事項などを示す。

ヘ. その他の言い換え語例は, 文脈によって必要となる言い換え例を補足として示す。

ト. 複合語例は, 複合された語に対して特別な言い換えが必要な場合にその例を示す。

(2) 第2回中間発表に向けての作業について

最新の白書に出現する外来語から問題になりそうなものとして作業部会が選定し, 世論調査にかけた語のうちから理解度の高かった語(理解度が全体平均で75%以上且つ60才以上平均で75%以上のもの)及び第1回で言い換えた語を差し引いた約160語を3回に按分して得られた56語を第2回の検討候補語とした。

この56語について各委員において, 4月下旬までに適切と思われる言い換え語の選考を行い, 5月からその絞り込みと中間発表原案の作成を行い, 7月に中間発表, 10月に最終発表を行うこととした。

(3) 会議での主な意見

シェアについて考えるべきことは占有と分有ということの関係と思われる。

「占有」というのは「分有」のある特殊な一つの形ではないか。基本的には「分有」と考えておいて, その「分有」のしかたが非常に片寄ったときが一種の「占有」であるというように考えると, 「分有」の方がより上位の概念ということで, 融通のきく言い換え語になるかもしれない。

分有という言葉は社会的に定着しているか。言い換え語として採択する段階で, 「占有」だったらおそらくわかるだろうと思うが, 「分有」というのを耳で聞いてもたぶんわからないのではないか。そういう言葉を言い換え語として新たに採用すること自体に問題があるのではないか。つまり日本語の問題として, 日本語の語彙としても考えていく必要があるのではないか。

たとえば「エデュケーション」というのを「教育」と訳した。これは導き出すという意味が全然なくなってしまって「教育」になってしまったが、最初に「教育」という言葉を使ったのは孟子。そういう中国の古典にあるものをこれに当てはめようということをした。ところが、「分有」は論語にも孟子にもないが、ここは大胆に造語としていくこともあっていいのではないか。

熟語としての馴染み方は、一定の理屈があるべきであり、造語が必要という前提があれば、その方向で考えるべきだろうが、その場合は、言葉をつくっていく段階で、何らかの手順かプロセスがいるのではないか。

定着率は悪いが、概念としてこれからますます必要になっていく外来語の中には、拍数が長いなど不都合もみられるので造語をするべきではないか。ある程度定着しているものをわざわざ造語にするというのは、世論に逆らうということになりかねない。

言い換え語を一つに絞る方向としたいが、提案された言い換え語だとどうしても使いづらいと、また外来語に逃げてしまうことが実際はかなり起こるのではないか。そういう場合を想定すると、その他の言い換え語例という形で、最初の言い換え語例を1個に絞ったものから落ちたものも、できれば載せておくことが外来語をなるべく避けるという意味では大事なのではないか。

外来語がある場合、対応は二つある。一つは言い換える、もう一つはそれを使いながら説明をつける。ここでは、その方法を二つ提示する。よりよいのは言い換えることだが。どうしても外来語を使いたいならば、何らかの説明を付けるということにして、その説明の例としてはこうという順序にすれば明瞭になるのではないか。

その他の言い換え語例で、文脈に沿っていろいろ言葉をあげると、かえって使い手は迷う点がある。中核的な言い換え語に絞って出していくほうが良い。

言い換えの全体が提案なのだから、個々の文言に関してなるべくくっきりと言い切るのがいい。あまりためらいみtainなものを出すのは、かえって分かりにくいものになる。

この委員会でいちばん避けたいことは言葉狩りをしていると誤解されることである。候補語の選択として定着度が全体平均75%以下且つ60才以上平均75%以下としているが、全体平均75%に近いものはもう言い換えなくても良いのではないか。

理解度75%ある語でも、そこで理解できないとする最後の4分の1の中に入る人が、話しの場にはいないとは限らない。いちばん困っているそういう人に対する配慮を基本的に欠いてはいけないのではないか。

別の見方をすると、たとえば実際にどう使うかということを考えると、「これは理解度75%位だから、まあ使ってもいい。けれども、こっちは理解度が25%ぐらいだから、どうしても何とかしよう」というような、そういう発想、そういう使い方もあるから、ある程度、定着度が違うものを取り混ぜるといのは意味がある。